

メーリングリスト [umikatsu] における議論

No.	月/日	発信者	頁	内容
156	2/2	事務局 (重野)	1	海域活断層の長期評価の当面の進め方及び情報発信について

[umikatsu(156)] 海域活断層の長期評価の当面の進め方及び情報発信について

投稿：事務局 (重野)

地震調査委員会 長期評価部会 委員各位
CC:海域活断層評価手法等検討部会 委員各位

お世話になっております。文科省事務局重野です。

海域活断層の長期評価に関しては、日本海南西部（九州・中国地域北方沖）の評価結果を2022年3月に公表した後、その東側の能登地域沖を含む海域について評価を行っていましたが、令和6年能登半島地震が発生した際には、ご存じの通りこの地域の海域活断層の長期評価を公表できておりませんでした。

そのような中、本日、海域活断層評価手法等検討分科会が開催されましたので、その際に事務局から今後の進め方について下記の提案を行いました。

※（提案の概要）日本海南東部の評価を行った際にも、対象海域の審議が終わった際に、トレースや規模、確率、評価文等についてセットで公表していましたが、当面の対応として、まずはトレース、地震の規模、名称について及び断層の種類・信頼度、1回のずれ量、傾斜・信頼度、断層面の幅についても可能ならばという事にはなりますが、これらを先行して5月頃に公表する方針

こちらの方針については、概ねご了承いただけたと考えています。

関連して、今後進むであろう調査結果の扱いについて、本日の分科会でも意見が出ましたが、基本的にはスピード感を重視させていただきつつ、調査委員会の評価や今後の調査結果も考慮して、できるだけ後から修正にならないやり方（あるいは範囲）で公表をしたいと考えております。

また、情報発信については、これまでは評価の公表の際にまとめて行っていましたが、今回の能登半島地震を踏まえて、審議の内容についてはともかく、審議の状況や進め方については途中段階でも情報発信していくこともありえるのではないかと考えており、これらの情報発信の方法に関して事務局で検討していくので、一任をお願いしました。

本来は、地震調査委員会や長期評価部会の皆様にもご説明してから進めるべき点もあるかと思いますが、当面、このような形で進めたいと思いますので、ご承知おきいただければと思います。

それでは今後ともよろしく願いいたします。

以上